

地域一体で取り組むエンロールメント・マネジメントの可能性
ー 多様な主体の参加と成長を促進する教育アセスメントづくりー

教育方法論的視点からの参加型アセスメント構築の試み



大正大学 専任講師 出川真也

1. 多様な教育・研究手法・方法論の導入

「大学に対する見方が『指導の提供機能を持つ機関』から『学びの創出をデザインする機関』へと変化してきている。」 S.ゲルモン2015

旧来の方法	論点	新しい方法
獲得	知識	応用
個人	焦点	チーム／地域
教員による	カリキュラムの定義	教員、地域、学生による
積み上げ型	指導法	共同性
既定の講座	デザイン	統合的配置
受動的	学生の学び	能動的
散発的な改革	変化	継続的な改善

Sゲルモン他著、山田一隆監訳2015「社会参画する大学と市民学習 アセスメントの原理と技法」
学文社p.8表より作成

様々な教育・研究手法

教育手法

- AL : Active Learning
- PBL: Project Based Learning, Problem Based Learning
- SL : Service-Learning ,Social Learning
- CL: Community Learning
- LAL: Lifelong Action Learning

研究手法

- AR : Action Research
- PAR : Participatory Action Research

H27年度～29年度大正大学出川真也研究室の取組における 教育・研究手法の適用例

新潟県阿賀町

- 青年会・高校生・大学生協働による学習交流を軸とした地域活動

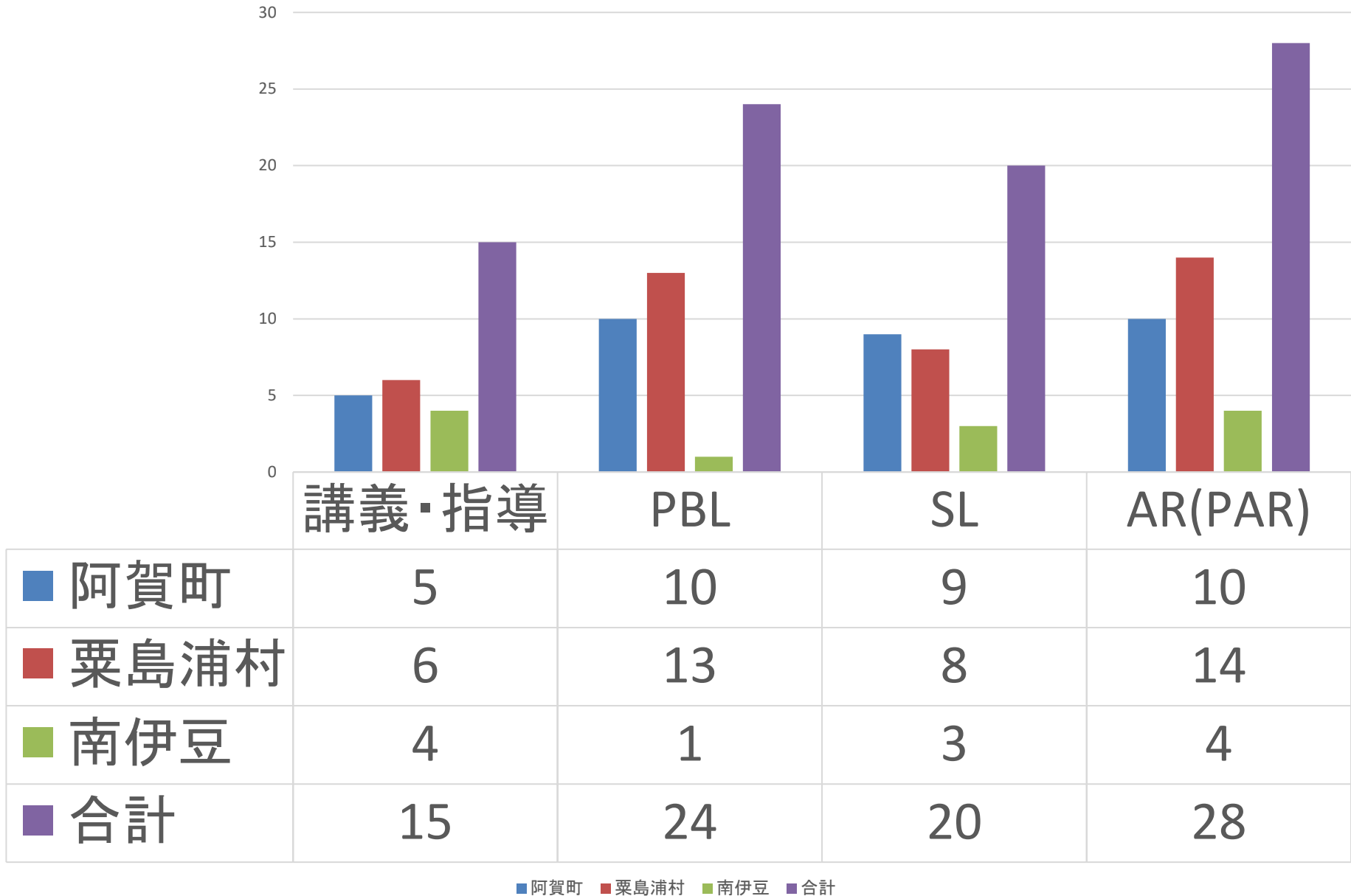
新潟県粟島浦村

- 島内高齢者の知恵・技術や地域資源を活かした島外住民との活動プログラムづくり

静岡県南伊豆町

- 里山の資源と生業を活かした高校・大学生向け研修プログラムの研究

教育・調査手法の形態別実施量 (2017.11現在分析値)



2. アセスメント(評価)の重要性と課題

「成人教育は、それによって学習者が意義ある経験を自覚するようになるプロセスである。意義の認識は、評価に通じる。」(Lindeman, E.C., *The meaning of Adult Education*, 1926)

1) アセスメント(評価)の必要性

- ・計測できる部分については計測の努力を
- ・特性・有効性等を適切に踏まえた活用

2) アセスメント(評価)の課題

- ・対象の複雑さ、関係性の複雑さ
- ・威光暗示効果、恣意(政治)的要素等の影響

→多様な関係者の参加・協働によりアセスメント(評価)を創り出す必要性

その際、「内容」よりもその「方法」に関心を寄せる必要がある。

事例 宮城県塩竈実習事例(大正大学地域創生学部地域実習)

前後の振り返り含めて約2か月の地域活動を主体とした実習

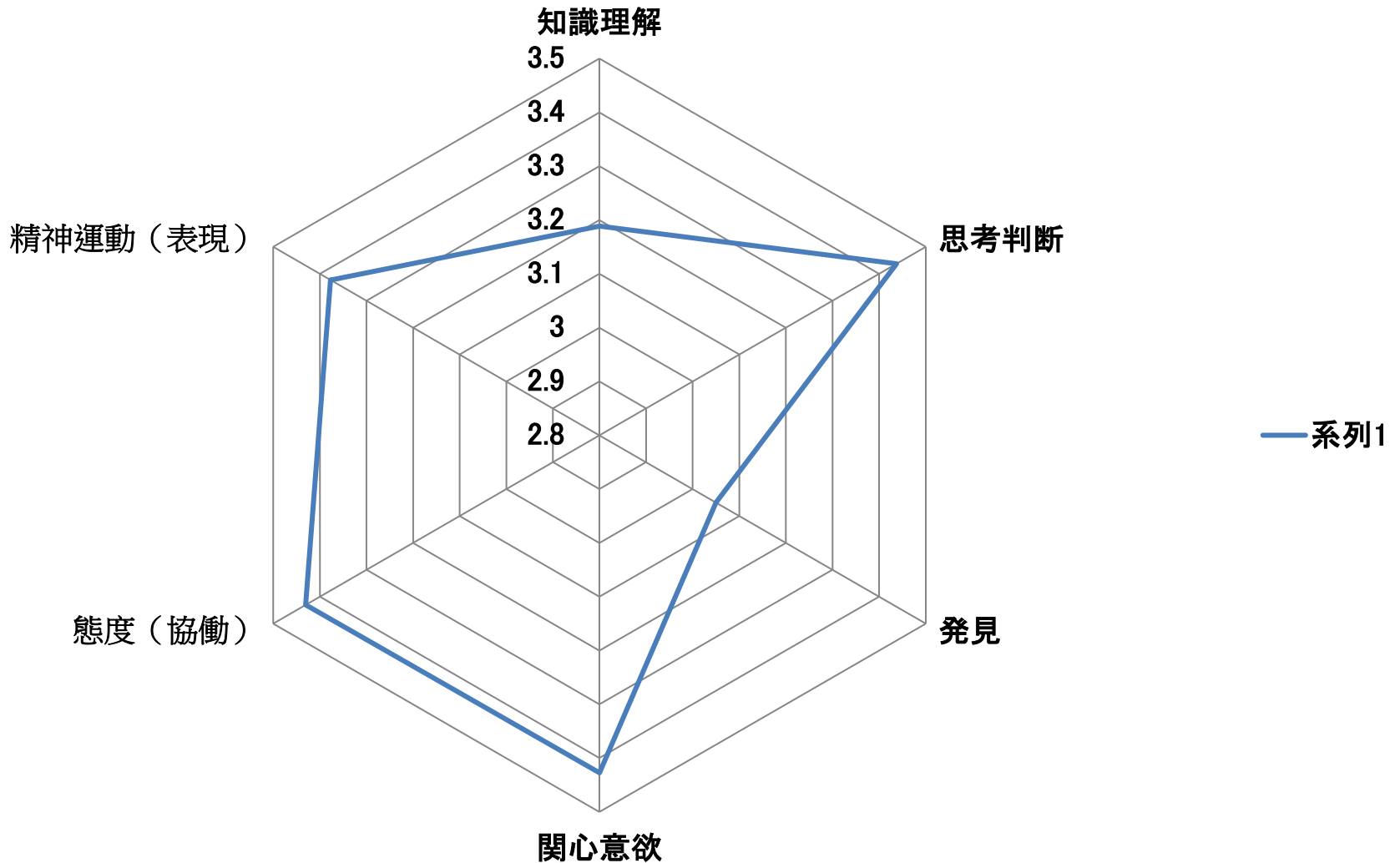
「塩竈発 本土・離島の多様な資源を活かした新たな6次化構築産業の創出」

このタイトルのもと各学生がそれぞれの関心・切り口でテーマを設定して調査研究活動を行う。

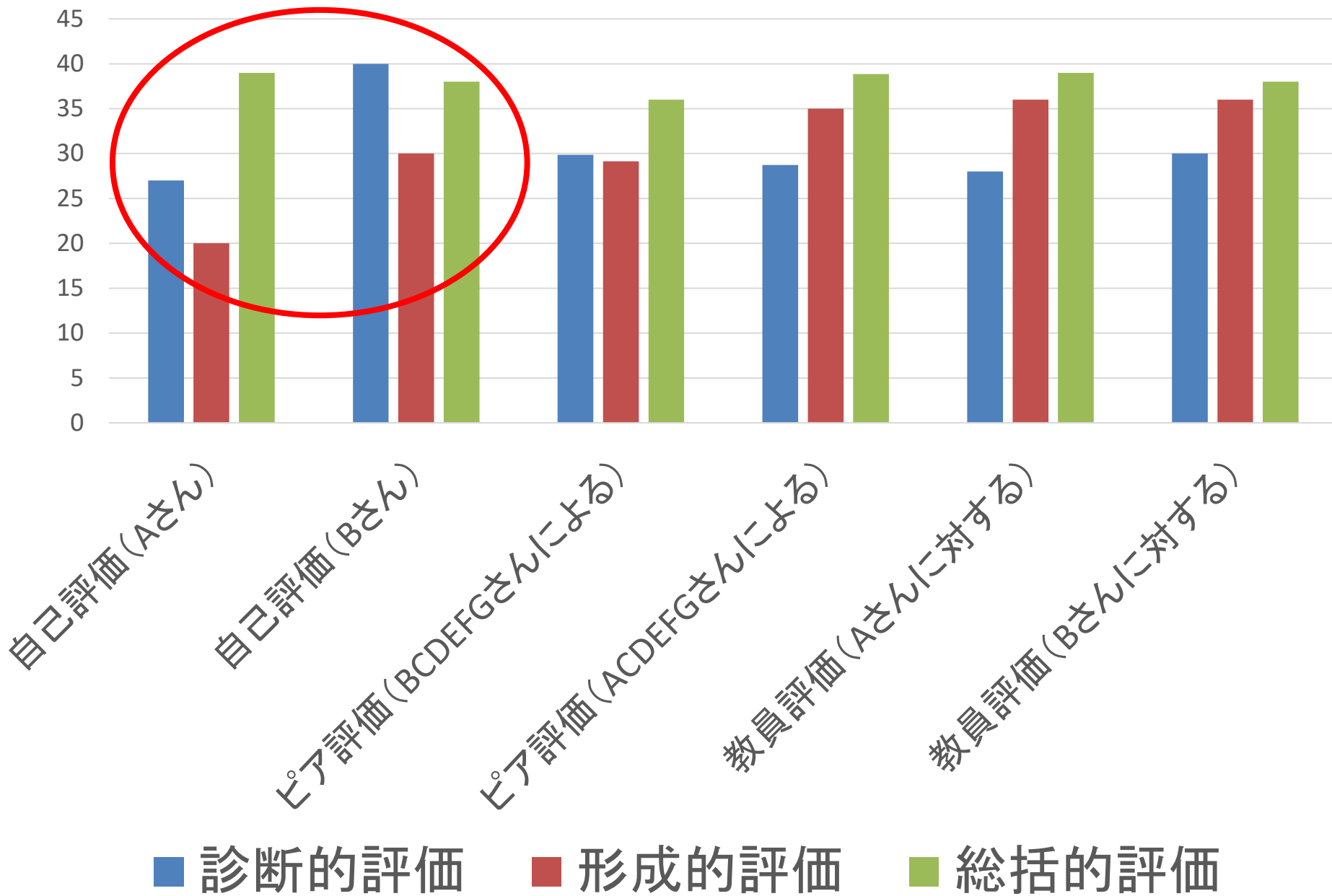
- ①調査設計・計画立案
- ②資料収集・ヒアリング・取材・現地踏査・体験
- ③試行実践活動
- ④成果報告とりまとめ

塩竈実習授業における観点別評価から

(診断的評価・形成的評価・総括的評価＋自己・ピア・教員平均)



地域実習(塩竈)における評価推移



4. 考察と今後の展望

1) 学生・地域双方を視野に入れた成長発達(発展)のアセスメント(評価)構築

- ・地域視点の導入。
- ・学生・地域協働のアセスメント(評価)の具現化

2) 地域に根差して活用可能なモデルについて

- ・ロジックモデルを基盤としたアセスメント構築方法論の活用

3) 多主体連携によるPDCA展開の要としてのアセスメント

- ・アセスメント(評価)は目的設定～立案と表裏一体

参考: ロジックモデルを活用した参加型アセスメント評価構築の検討

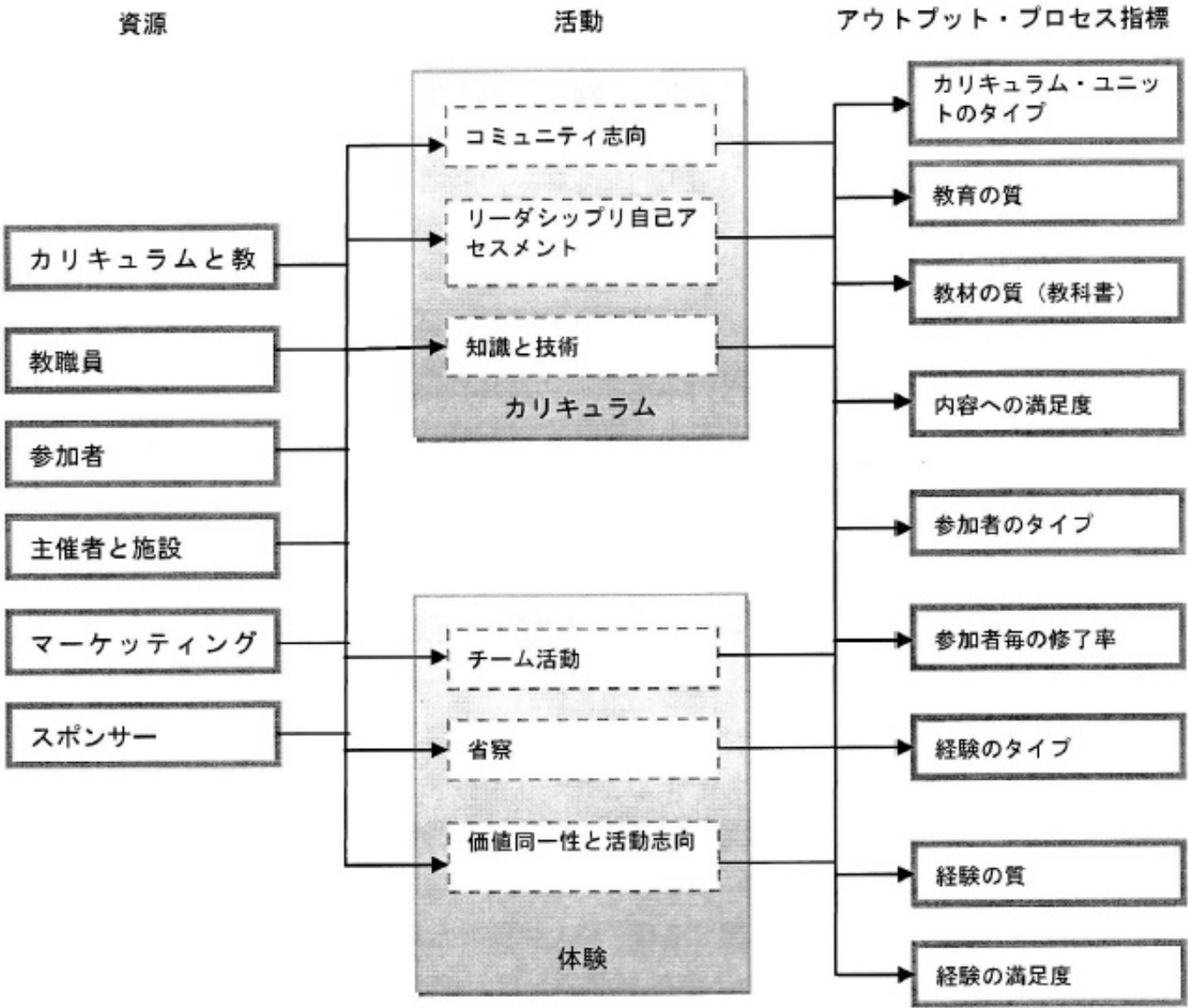


図 5.4 CLA プロセス指標

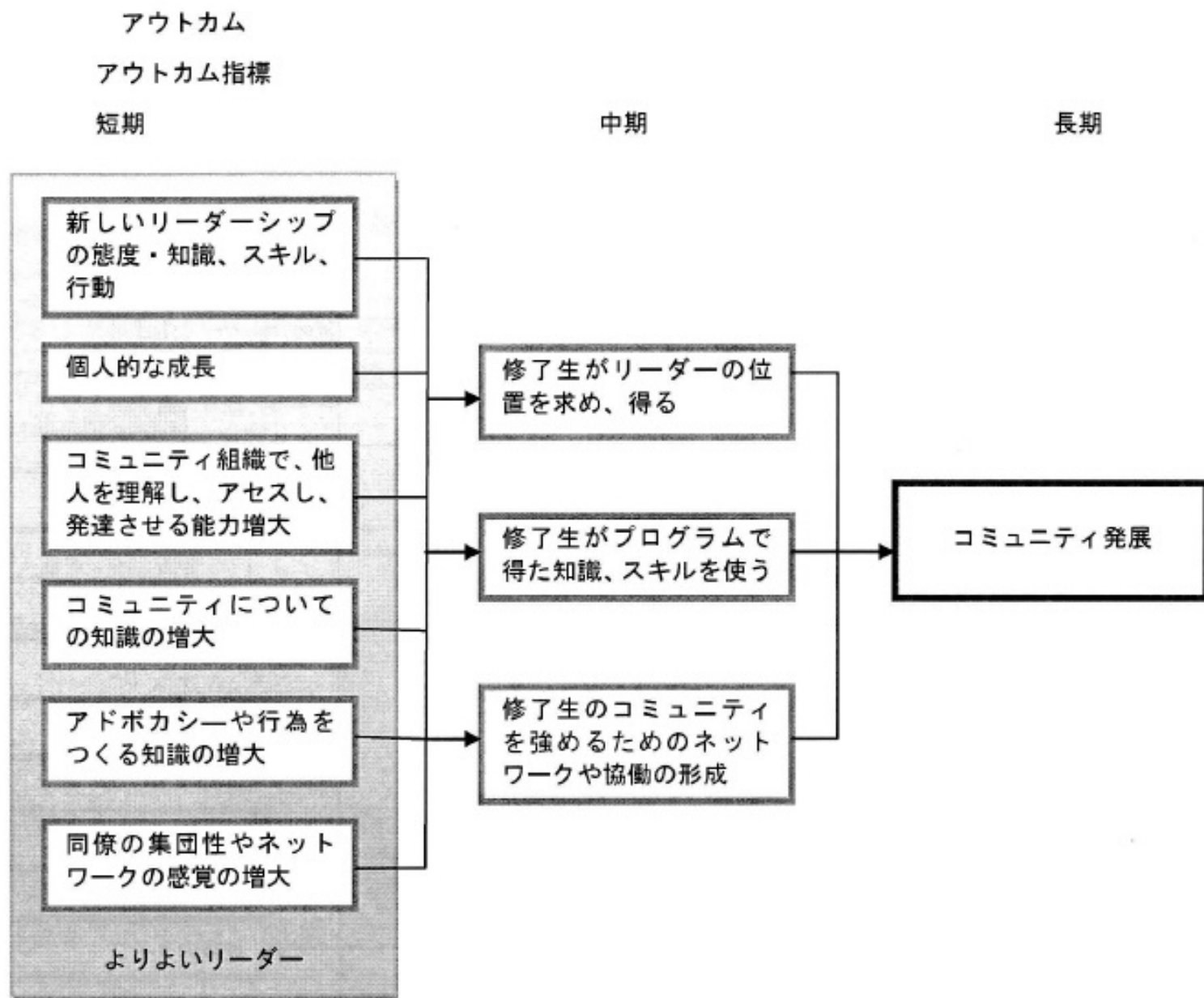


図 5.5 CLA のアウトカム指標

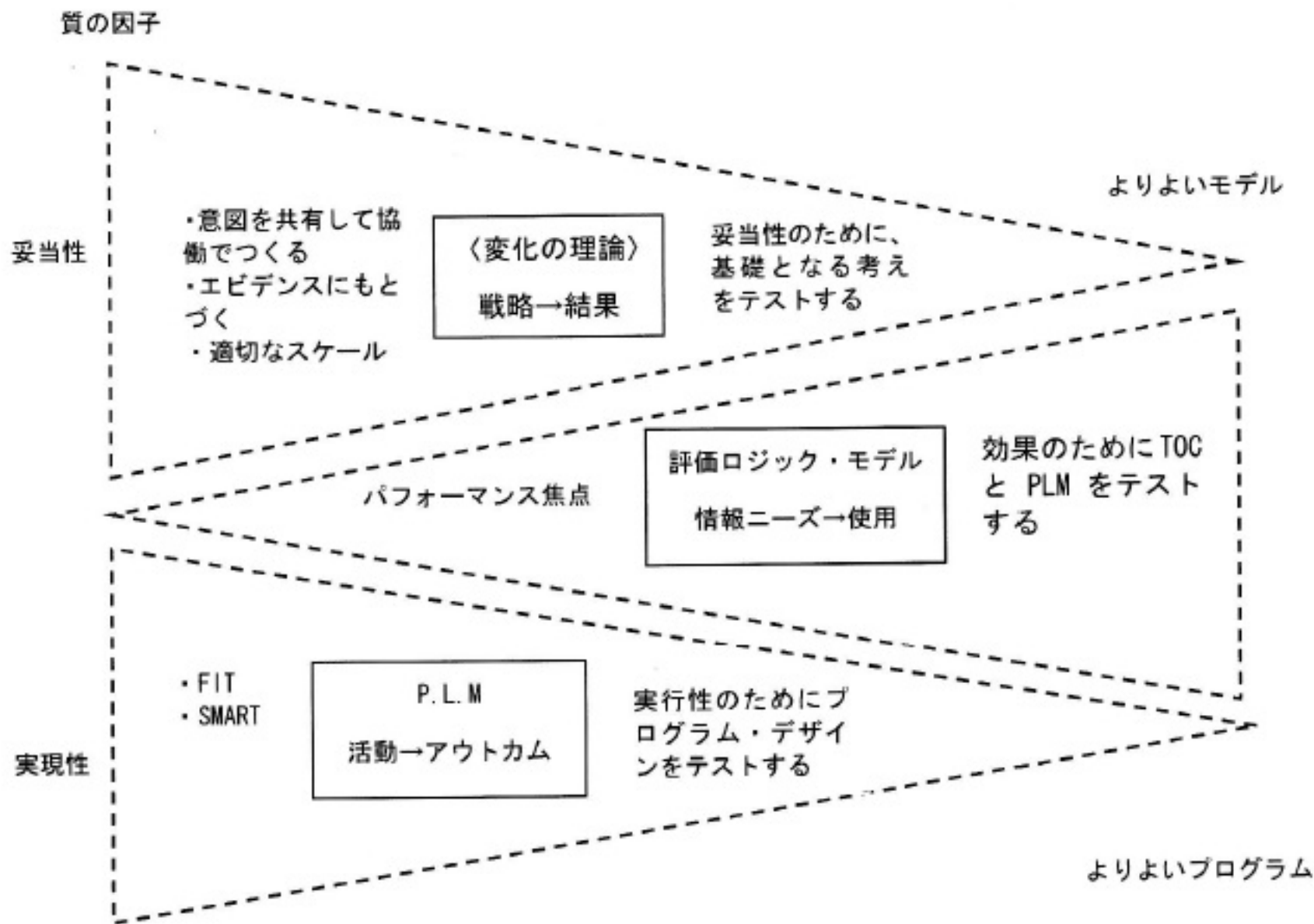
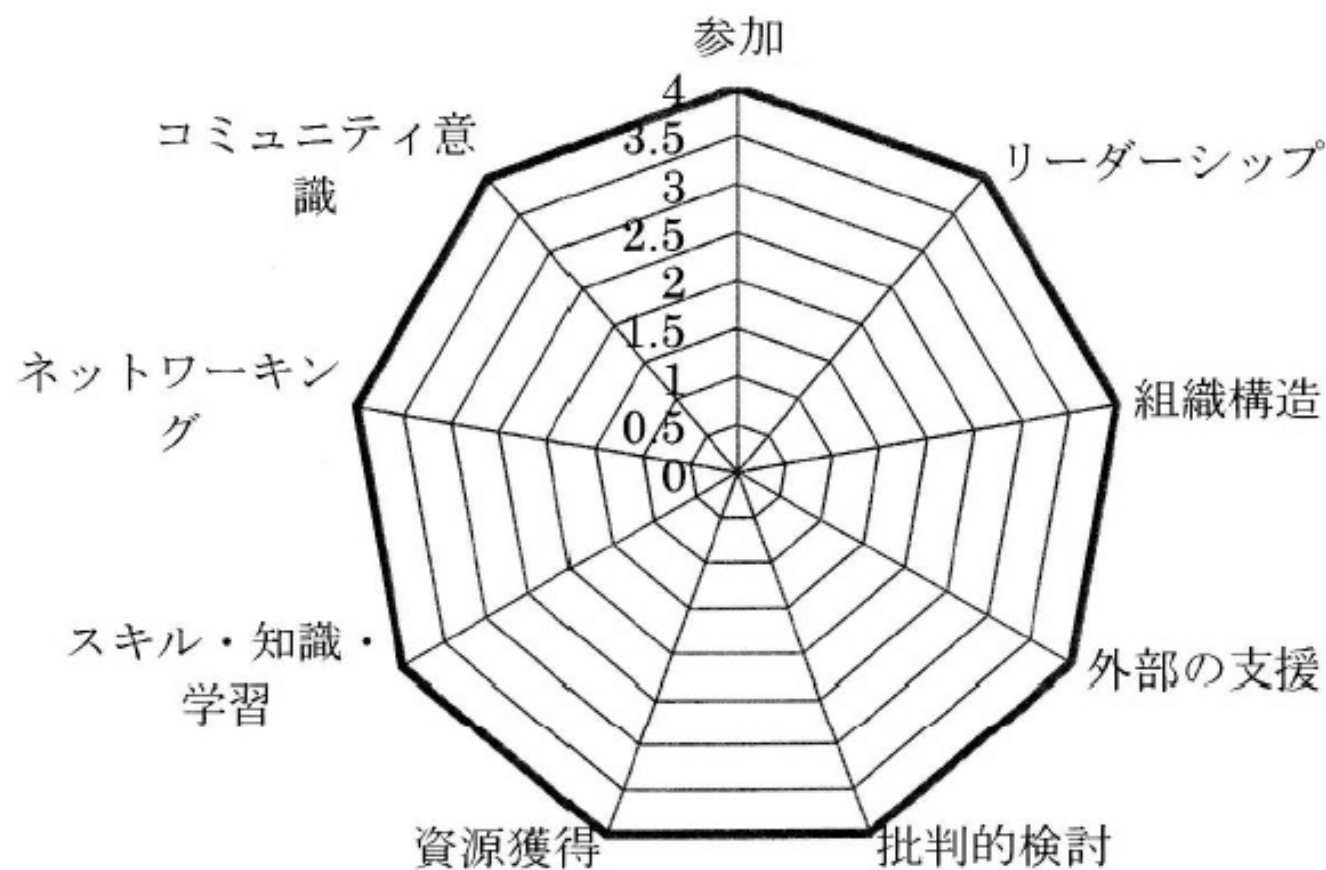


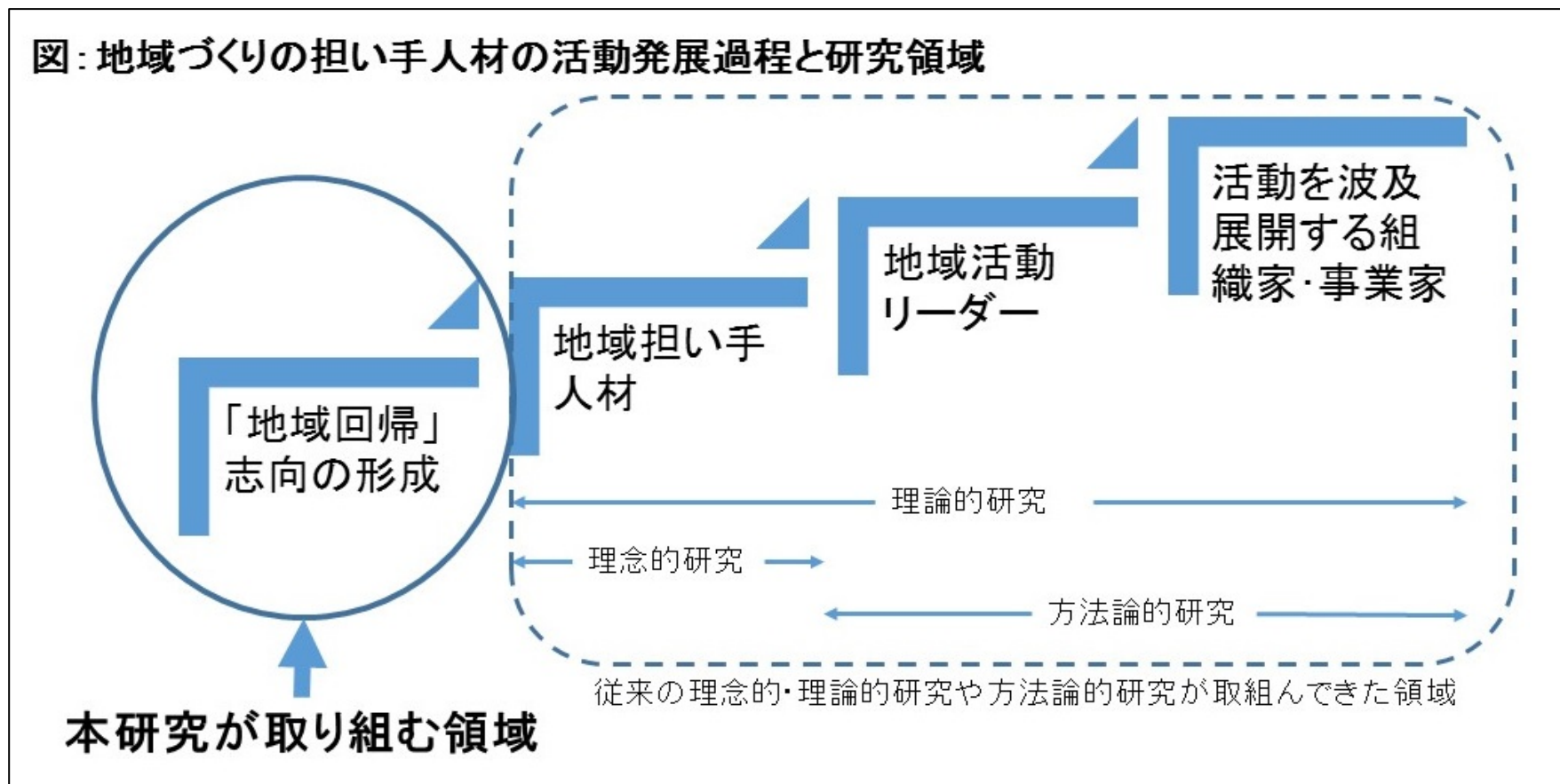
図 5.6 プログラムと評価デザインのための質の要因と特徴

あなたの実践がつくるコミュニティ・キャパシ ティ



参考：平成29年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金H29－31）

「『地域回帰』志向の形成過程とその教育的要因の類型的・数値的解明に関する研究」における対象領域とアセスメント



様々な段階でのアセスメント的視点導入と、効果の可視化・活用の可能性